



教室や校内の環境整備

No. 1の号で個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成についての情報を提供しましたが、参考にしていただけたでしょうか。1学期も中盤になりました。今後も児童生徒がより良い適切な環境で授業を受けられるようにしていきたいものです。今回は、教室や校舎内の環境整備の基本を振り返ってみましょう。

教室内の環境整備

(1) 物の配置

歩行する際のスペースは十分に確保しておくとともに、日常的に歩行する動線上には障害となるような物を置かないように留意することが必要です。新しく物を置く場合は、事前に伝えたり、一緒に確認したりしましょう。通路の近くに備品や教具等が置かれていると、つまずいたり蹴飛ばしたりしてしまうということが起こりがちです。

(2) 明るさの調整

同一教室内でも、窓側と廊下側とでは明るさが異なります。そこで、窓側には通常のカーテン以外にブラインドや遮光カーテンを取り付けましょう。照明は、直接光源が目に入らないように間接照明にするとともに、状況に応じて明るさがコントロールできる調光可変式にしたり、黒板灯や机上灯を取りつけたりするなどが望ましいです。

(3) 板書

光の反射で板書が見えにくくならないように、黒板やホワイトボードが光源や外窓を背にして置かれていないかどうかを、常に確かめておくことが必要です。板書の際には、できるだけコントラストの高い色（黒板は、白色または黄色のチョーク、ホワイトボードは黒色や青色、赤色のマーカー）を使用することが基本です。チョークの色の違いを認識しにくい児童生徒もいるので、大事なところは線で囲んだり、色と共に下線や波線等使い分けたりしてみましょう。

(4) 学習机

机の天板が斜めにせり上がり角度が調節できるように工夫された傾斜机にするか、机に調節式の書見台を置くことなどが望ましいです。これらが無い場合は、通常の机をある程度よい姿勢を保って、作業がしやすい高さに、個々の実態に応じて調整する必要があります。また、机上の天板をつや消しの灰色や黒色に塗るか、そのような色使いのシートやマットを敷くなどの工夫をするとよいです。反射からのまぶしさを軽減したり、コントラスト差で、教科書やノートが見やすくなったりします。



天板の傾斜角度を変えられる学習机

校舎内の環境整備

(1) 廊下、階段、体育館等

廊下や階段、体育館など校舎内には、段差があったり、暗かったりして、歩行等に際し、安全ではない場所がいくつか存在します。見えにくい場所や注意を喚起すべき場所に照明を付けて明るくしたり、区別しやすい色に塗り替えたりするなどの配慮や、階段の各段にはコントラストのはっきりした滑り止めを設置するとよいです。難しいときは、カラーテープを貼るだけでも違います。階段の両側には手すりをつけるなど、安全に安心して移動できるための配慮も大切です。

(2) 教室やドアの表示

教室の表示プレートは、小さく上のほうにかかっていることが多いです。児童生徒の見える位置まで下げるとともに、見やすい大きさと、例えば黒背景に白文字で掲示するとよいです。

(3) 食器

学校給食で用いられる食器やトイレ、ランチョンマットも、木目や明るい色調よりは、灰色や黒っぽい色調のほうが、見えやすい場合が多いです。



黒色のごはん茶碗



既存のプレートの上に大きく表示

引用図書：大川原潔・香川邦生・瀬尾政雄・鈴木篤・千田耕基 著

「視力の弱い子どもの理解と支援」 教育出版

香川邦生・千田耕基 編「小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援」
教育出版